

第2章 一乗引越し ～一乗谷から北庄へ～

栄華を極めた一乗谷ですが、天正元年に朝倉氏は織田信長との戦いに敗れ、まちとともに滅亡します。一乗谷に住んでいた多くの人々の、その後の動向は明らかではありませんが、一部の寺院・神社・商人などは北庄（現在の福井市中心部）に移り、新しい町の発展に寄与することになります。一乗谷から移ってきた寺院は「一乗引越し寺院」と呼ばれました。

そうした人々によってつくられたまちには、鮮明に一乗谷の記憶が残っていました。



福井城旧景（当館蔵）



足羽神社々頭之図（当館蔵）



重要文化財
阿弥陀如来二十五菩薩来迎図
(安養寺蔵、当館寄託)

第3章 福井市内ゆかりの地 ～いまに残る朝倉氏の面影～

福井市内には、朝倉氏の本拠地であった一乗谷朝倉氏遺跡をはじめとして、朝倉氏や一乗谷につながりを持つ場所が多く残ります。また、地名などの由緒を探ると、朝倉氏や一乗谷につながることも多く、往時の権力や影響力の強さを見て取ることができるとともに、現在でも朝倉氏の面影が色濃く残っていることがわかります。



滝殿社（福井市安波賀町）



龍興寺跡（福井市八幡町）

次回の展示

企画展示室
夏季特別陳列①「福井の里山・文殊山ゆかりの神仏」
松平家史料展示室
夏季特別陳列②「まぼろしの鉄道-東北鉄道と明治の福井-」
■令和5年7月27日(木)～9月3日(日)

展示解説シート No.157

令和5年3月21日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1

電話 (0776) 21-0489

FAX (0776) 21-1489

担当：白嶋 祐司 印刷／白崎印刷株式会社

令和5年春季特別展

いまに残る一乗谷の記憶

- 会場 2階企画展示室
- 会期 令和5年3月21日(火・祝)～令和5年5月7日(日)

戦国大名朝倉氏は越前支配の本拠地として一乗谷のまちをつくり、栄華を極めました。天正元年（1573）に織田信長との戦いに敗れ、まちと共に滅亡します。その後、越前の中心地は北庄（現在の福井市中心部）へ移りますが、由緒を一乗谷に持つ寺院や商店を現在の市街地でもみることができます。

令和5年は最後の当主、朝倉義景没後450年にあたり、本展では今のまちに残る一乗谷の痕跡をたどります。

第1章 越前朝倉氏 ～但馬から越前へ～

朝倉氏の祖先は、但馬国朝倉庄（現在の兵庫県養父市）の豪族でした。「朝倉」の名はこの地名に由来します。南北朝時代の延元2年（1337）に越前守護、斯波高経に従って越前にやってきたと考えられています。このときの朝倉広景から始まる一族を、「越前朝倉氏」と呼びます。

7代孝景のときには応仁の乱の勝敗を左右するほどの実力を持ち、斯波氏の勢力を追い出し越前をほぼ手中に収めました。その頃、本拠地として整備され始めたのが一乗谷で、後に栄華を極めることになるのです。一乗谷のまちには、出身地の但馬ゆかりの施設も設けられていました。



朝倉記（当館蔵）



朝倉城跡（兵庫県養父市）



大黒丸城跡（福井市三宅町）



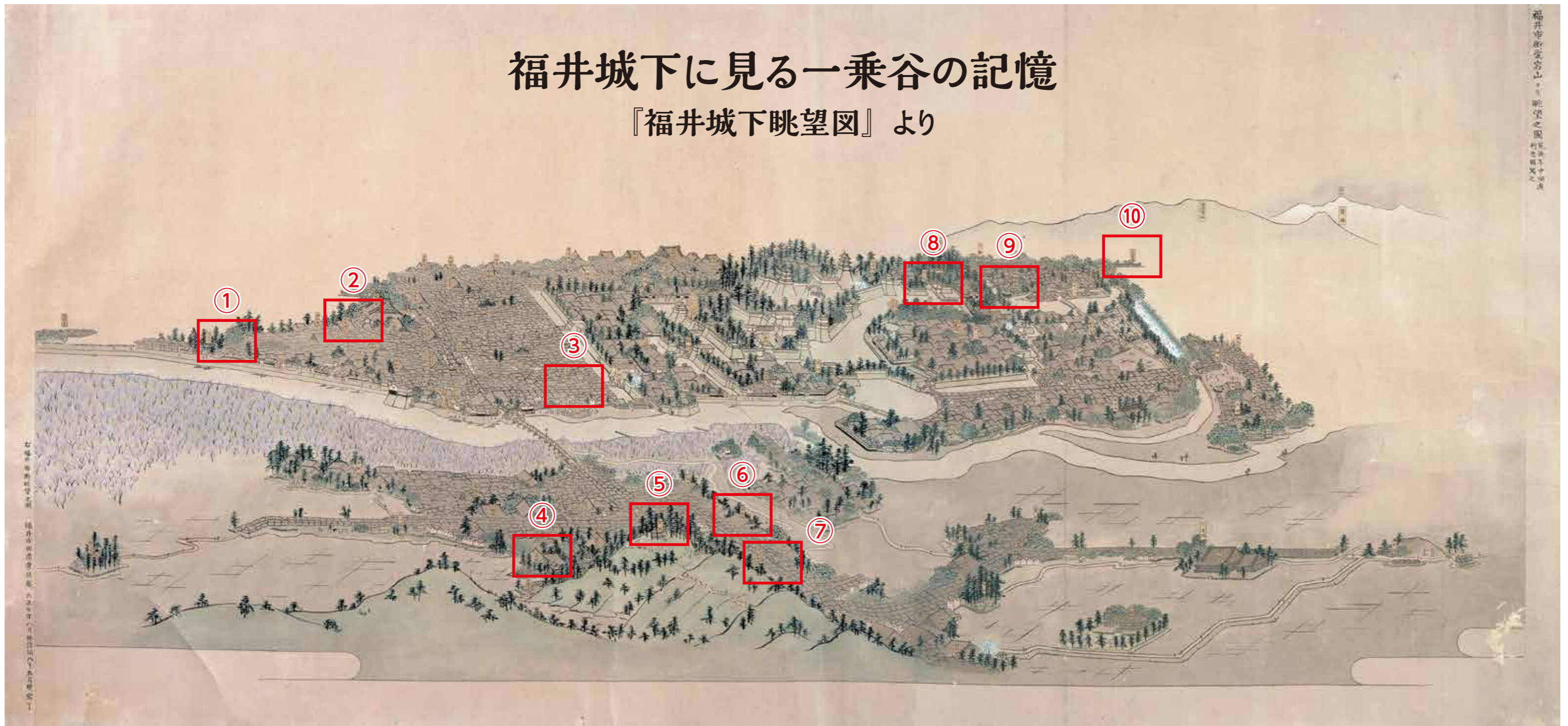
赤淵神社（兵庫県朝来市）



赤淵神社跡（福井市城戸ノ内町）

福井城下に見る一乗谷の記憶

『福井城下眺望図』より



福井城下にみる一乗谷の記憶
『福井城下眺望図』より



はちまん
①八幡神社
一乗谷の整備にあわせ、宇佐八幡宮(大分県)より勧請。慶長年間に北庄に移る。



②西山光照寺
一乗谷にあった天台真盛宗の大寺院。末寺の7か寺とともに北庄に移る。(現在は天台宗)



③一乗町
一乗谷に居住していた人々が北庄に移住してきた。



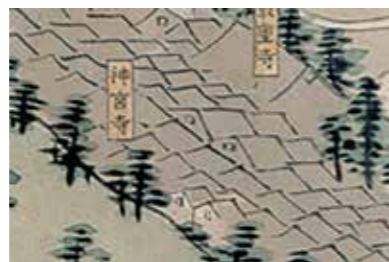
④心月寺
7代朝倉孝景が一乗谷に建立。慶長8年(1603)に北庄へ移る。



あたご
⑤愛宕権現社
7代孝景の子、景儀が愛宕神社(京都府)一乗谷に勧請。天正4年(1576)に北庄に移転。



⑥西光寺
9代貞景が一乗谷近くの内ヶ岡(次郎丸町)に創建。天正4年に北庄に移転し、柴田勝家の菩提寺となる。



⑦猪之助町
朝倉氏の家臣、毛屋猪之助の屋敷があったことちなむ。



⑧三崎門
一乗谷にあった、朝倉氏の一族である三段崎氏(後に三崎氏に改名)の屋敷の門の部材を使用。



⑨鎮徳寺
一乗谷城にあった十一面千手観音菩薩像を安置。隣接して観音町があった。



⑩志比口天王社(鯨川神社)
元弘2年(1332)に一乗谷に近い篠尾村(篠尾町)に津島神社(愛知県)より勧請。永禄2年(1559)に北庄に移転。